Noam Chomsky: Syntactic Structures

Mouton（1957）

1957 年にオランダの小さな出版社から刊行された，わずか 118 ページの小冊子が，言語理論研究の基盤を根底から覆してしまうきっかけになることを予見できた人はそう多くなかった．その小冊子 Syntactic Stuctures（邦訳は「文法の構造」と題されているが，Structures と複数形になっていることからも分かるように「文法的構造」ないしは「統語構造」と訳すべきであった）は，1955 年にペンシルベニア大学に提出された博士論文をその一部に含む The Logical Structure of Linguistic Theory の中核部分をもとにした MIT での講義ノートとして準備されたものであるが，大部な LSLT だけでなく，SS もアメリカでの出版はかなわなかった．ちなみに，LSLT は 1975 年になってようやく Plenum 社から出版された．

「序」に明記されているように，本書の基本的な狙いは，言語理論研究における明示的な理論や分析の重要性を示すことにあった．具体的には，自然言語の構造を捉える仕組みとして有限状態文法や句構造文法が妥当性に欠けることを示し，文法記述における変形（規則）の必要性を英語を例に説得力をもって論じた．生成文法理論と呼ばれる Chomsky の言語理論は，その後，Aspects of the Theory of Syntax（1965）の第 1 章，Cartesian linguistics（1966），Language and Mind, Enlarged ed.（1972）などによる哲学的・心理学的基盤の整備を経て，言語理論を認知科学の一翼を担う重要な研究領域として位置づけることに成功した．提案されている生成文法理論の枠組み自体は幾多の変遷を経て，ミニマリズムと呼ばれる現在の研究プログラムに至っているが，言語理論研究（獲得研究，使用研究などを含む）によってこころの本質に迫るという目標そのものは一貫している．

SS では表面だって論じられているわけではないが，B.F.Skinner の Verbal Behavior（1957）に対する書評（1959）や僚友の心理学者 George A. Miller や神経生理学者 Eric Lenneberg らとの共同研究によって，Chomsky の言語理論の心理学的，神経生理学的意味合いが次第に明らかとなり，認知心理学や神経生理学の展開に大きな影響を与えた．彼の理論に触発されて，言語獲得，言語理解，言語産出の研究が大いに進展した．最近話題になることが多い言語の脳科学の理論的基盤を整備したことも Chomsky の言語理論が「関連領域」に対して与えた重要な学問的貢献の 1 つである．

Chomsky は 4 つのタイプの形式文法間に階層関係（Chomsky 階層）があることを証明し，生成文法理論の形式的基盤を整備する上で重要な役割を果たしたと同時に，数理言語学に対して大きな影響を与えた．また，生成文法理論の数学的構造の明示性の故に情報科学，特に自然言語処理研究にも影響を与えた．さらに Chomsky の言語理論はその方法の魅力の故に，狭義の認知諸科学のみならず，文化人類学や免疫学などにも影響を与えた．なかでも，Nobel 生理学・医学賞の受賞者である Niels K. Jerne による The Generative Grammar of the Immune System, Science 229, pp.1057-1059（1985）は特筆に価する．

Chomsky の言語理論が認知科学を始めとする多くの学問分野に対して貢献したことを評価し，1988 年に認知科学分野で京都賞が与えられた．

一般の人々にとって Chomsky は言語理論研究者，認知科学者というよりも，社会／政治問題に対する積極的発言で知られている．2001 年 9 月 11 日の世界貿易センタービルなどに対するテロ攻撃についても，その直後から，アメリカに対するテロを止めさせるためには，アメリカ自身が他国に対するテロ攻撃をやめるべきだという論を展開し，論議を巻き起こした．

Chomsky は 1928 年 12 月 7 日の生まれであるから，すでに 74 歳である．しかし，体力の許す限り，比類なき知性に裏づけられた，言語理論研究の将来を見据えた発言と社会／政治問題に関する鋭い指摘を中断することはないだろう．

追記：David Lightfoot による 18 ページの解説を付した本書の新装版がごく最近（2002 年）出版された．また，最近の理論的枠組みの視点から本書を再評価した興味深い試みとして，Howard Lasnik: Syntactic Structures Revisited, MIT Press がある．

（平成 14 年 12 月 30 日受付）

大津由紀雄／慶應義塾大学
oyukio@sfc.keio.ac.jp